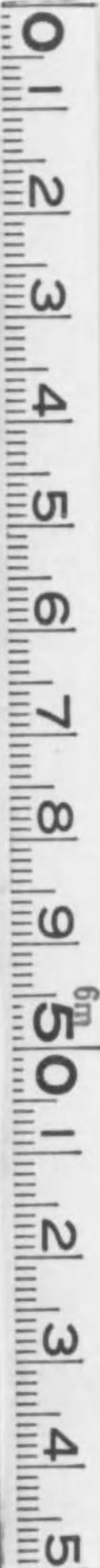


特261.

103

鶴
龜

昭和改訂版
外二



始



鶴 龜



(梗概) 毎年宮庭の節會に帝王威儀を正して、玉座奥深く出御し給ふ処
 百官郷相は袖を連ねて参向し賀詞を奉呈すれば、萬民亦た聲を揃へて
 拜賀する、その響は天に轟くばかりなり、金銀の砂を敷きつゝねたる
 庭土には、千代万代を壽く鶴と亀との舞を散覽はせられ、帝も御感の
 餘りに躬う立つて舞樂を奏し、妙なる花の袖を返し給へば、山河草木
 は自然に恩澤に霑ひ、國土萬民は自ら豊饒なるべしと歡を盡して舞ひ
 納め、長生殿にぞ還御し給ひける。實に聖代の御世万歳を稱へたる、
 芽出度き一曲なり。

シテ 皇帝
 子方 鶴
 全 龜
 ワキ 大臣
 ワキ連 全二人
 所 唐土
 季 春

口取書序

サシ上

鶴龜

引て 失書湯のまよなれば四季は其の會の
 事初め 不老門よそ 朔月の光を天子
 乃教覽みく 百官の相よむるまで
 袖をまよぬくひまをうつりて 人を救つ信
 百万余人 人を救つ信

二五

も舞おへば丹頂の鶴もさぶら年乃よ
こひを思ふよさづけまひりなほよきん
こひの中たれは帝も清き此余りにや
舞楽の秘曲をまよ一なり 樂 上月を
履乃白衣の袂 きた も色と妙ある
花の袖秋を耐ふれお祭の葉お袖冬を

ささるゆへ昔れ秘をひるぐくまなも清
むもきたる乃おのよ人乃舞樂れ数い
きい カ やう羽衣れ世をさむ チヤウ 山に雪お
國をゆへうふふ代万代としり并路入
お人 カ 舞 ヨ 連 チヤウ 丁 カ 清 チヤウ 連 カ を カ やめ カ 君乃よ
こひも長生殿よ君の歌も長生殿に

終

01
5